

# アトリエ 琉游舎 だより 123号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2022年1月26日発行

## 大寒卵 鶏始乳

- 1月20日から24節気の大寒に入りました。一年でもっとも寒い季節です。24節気のそれぞれを5日毎に三つに分けたものが72候です。初候、中候、末候に分かれ、1月30日から立春の前の日の2月3日までが鶏始乳（にわとりはじめてとやにつく）と呼ぶ、大寒の末候です。
- 鶏始乳は春の気配を感じた鶏が卵を産み始める頃です。自然な状態の鶏は日照時間が長くなると産卵率が上がるため、これからどんどん卵を産んでいくことが期待される頃なのです。
- 私たちは一年中卵を食べられることがあたり前のように思っていますが、昔は寒さでこの時期の鶏の産卵数は極端に少なくなったようです。逆に寒さが原因で水の摂取量が減り飼料を多く食べたため、栄養価の高い卵を産むのもこの時期だったのです。その様な訳で、大寒の卵は黄身も濃厚でもっとも美味しい卵と言われ「大寒卵」として昔から珍重されてきました。
- 「大寒卵を食べると一年を健康で過ごすことができる」と言われ、また「大寒卵は縁起物」とも言われています、風水では金運と健康運を呼ぶらしいのですが、毎日卵を食べている現代人にはその運も分散されてしまい、もはや縁起物の効果もなくなったかもしれませんね。
- 寒さに耐えた後には必ず春がやって来ます。厳しさに堪えた自然は、内にたっぷり蓄積されたその生気が満ちあふれる時を心待ちにしていることでしょう。人間を除く全ての生きものたちは、自然の法則に従ってそろそろ生気を爆発させる準備は整っているはずの季節です。
- ところが私たち人間だけは、コロナ禍で春の到来を心から喜ぶことを許されないまま、3年目の立春を迎えようとしています。オミクロン株の蔓延が自然の法則の一つならば、自然と仲良くするに越したことはありません。マスク・手洗い・ワクチン接種・三密回避という万全の手を打ち、大寒卵を食べて健康運と自然の栄養をもらうのも予防策の一つかもしれません。

### 2・3月スケジュール

2月			3月			
月	火	水	木	金	土	日
			27 映画会 13時半	28	29	30
31	2月1日	2	3 映画会 13時半	4	5	6 写経会 13時半
7	8 読書会 13時半	9	10 映画会 13時半	11	12	13
14	15	16	17 映画会 13時半	18	19	20
21	22 読書会 13時半	23	24 映画会 13時半	25	26	27
28	3月1日	2	3 映画会 13時半	4	5	6 写経会 13時半

**映画会**  
毎週木曜日  
13時半から

**写経会**  
2月6日(日)  
3月6日(日)  
13時半

般若心経・自我偈・  
観音偈・方便品の手  
本を用意しています。

**読書会**  
2月8・22日(火)  
13時半

1月から「阿弥陀経」  
がテキストです。浄土  
の姿が描かれた経です

注射が好きなのはいいと思います。針を刺した瞬間のチクッとした痛みから始まり注射液が体内に入っていくときの痛み、終わった後も続く腕の違和感。大人になっても注射の瞬間は緊張するものです。ましてや子供であれば白衣を見ただけで注射と察し、泣き出してしまうのも無理のない話です。最近では無痛の注射針が開発され、昔ほど注射前に身構えなくてもよくはなりました。久しぶりの注射だったコロナワクチンはいつ打ったか分からないくらいのおっけなで痛みを全く感じませんでしたので、これからは注射が嫌いな子供が減るかもしれません。ただ翌日の腕の痛みと発熱に、ワクチンが薬と毒の紙一重だとは実感しました。

小学生のコロナワクチン接種意向の調査結果が報道されています。私はてっきり100%受けたくないという回答かと思っていたら、低学年で50%高学年で60%は受けたいと答えていました。保護者はいずれも70%以上が受けさせたいと答えています。医学的社会的尺度を考慮しなければ子供にとっての注射は100%「イヤダ！」だと思っていた私には意外な結果です。しかしこの数字をよく見ると、保護者と子供の意向の間には20%の差があります。大雑把な分類ですが、親の意見を素直に受け入れる子と、親が何を言おうが注射だけはイヤだ！という子の差がこの数字に表れているのではないのでしょうか。社会的な意義や医学的な効果を子供は客観的に判断できないと言う理由で接種には保護者の同意が必要とされているのであれば、子供に意向を聞く必要はないでしょう。保護と被保護の関係性が数字に表れてくる調査は本来無意味です。この場合の保護者は親ですから、親の保護義務と親権の前で、子供の人権（意向）を考慮しなければ接種の判断ができないこと自体が親の保護義務の放棄にあたるはずで、それとも世の人々は親に子供のことを全面的に委ねることが不安で、保護されるべき子供の意見を聞かないと正しい判断がされないと思っているのでしょうか。

コロナ禍の現在、私たちは不安の時を過ごしています。不確実な明日の生活と感染の恐怖の中で人々は混迷の道を彷徨っているのです。科学は迷いから抜け出すための合理的な手段であるはずが、その科学も迷っているばかりで、人に意見を聞いてはまた迷うことの繰り返しが起きているようです。専門家や政治家の意見はあなたから迷いを取り除いてくれたでしょうか。エビデンスがない意見は信じないという人だらけになれば、いくら彼らが「私の言うことを信じなさい」と声を大にしても所詮無理な相談です。未来のエビデンスはどこにも存在しないからです。その混迷打開のために子どもにまでワクチン接種の有無を聞いているのかもしれませんが。手詰まりになれば、いずれ神託祈祷ト占の類いに頼るはずで、経済宗教の出番です！

原始経典「スッタニパータ」でお釈迦様は「瑞兆の占い、天変地異の占い、夢占い、相の占いを完全にやめ、吉凶の判断をとともにすてた修行者は、正しく世の中を遍歴するであろう。」<sup>注1</sup>と語っています。インド人の人生最終期の「遍歴期」は社会活動期を終え遊行する日々のこと、私の今の毎日です。加持祈祷ト占に人生を委ねることは「迷い」のままに日々を過ごすことです。「迷い」がもたらすものは「苦」です。一時その迷いの雲を祓ったかに見えてもまた新たな迷雲があなたを覆うでしょう。加持祈祷ト占の類いは「迷い」を「祓う」だけで消し去ることはできないのです。お釈迦様の根本思想「縁起の法」に従えば、祓った迷いもまた次の迷いを生み出す原因でしかないことは歴然です。私たちが唯一日々を委ねることができるものは、私たちに「苦」をもたらす「迷雲」をどうすれば消し去ることができるかを、上記のように実践的に説いたお釈迦様の「教え」だけです。教えのままにありのままに歩むとき、「迷い」は私たちの前からいつの間にか消え去っているでしょう。そして初めて人はやすらぎへの道を迷いなく歩むことができるのです。

先日無量寿経の読書会仲間の僧侶からネットの座談会室で「教えてください。日蓮宗や曹洞宗では、なぜ祈祷が行われるのでしょうか？真宗では禁忌です。」との質問を受けました。日蓮宗の僧侶としては答えづらい質問の一つです。既存の仏教で、加持祈祷を行わずお釈迦様の教えを今に正しく受け継ぎ護っている日本の仏教は浄土真宗だけです。日蓮宗寺院のネットのトップページの多くは「縁結び・子授け・安産・虫封じ・厄除け・家内安全・交通安全・営業繁盛・受験合格・就職・病気平癒・家屋祈祷・その他赤ちゃんの名前鑑定と命名・家相方位鑑定・相性鑑定なども行っており、古くから人々の信仰を集めております。」などの宣伝文句が踊っています。日蓮宗は現世にこそ浄土があるという「娑婆即寂光土」の教えです。寺院が衆生の欲望を布施という名の対価と交換に実現させてあげましょうという広告文で経済活動を行うことは、必然の流れです。一方浄土真宗の浄土は西方の阿弥陀仏の住まわれているところにあり、この現世は忌避すべき「厭離穢土」の地です。現世利益を必要としない宗教です。しかしいずれもこれは教科書的な答えです。

日蓮聖人の語る「祈祷」は「祈り」です。祈りは願うことです。「祈り、願い、誓い、行う」ことです。祈りを支えるものは「信」です。「祈り」があるからこそその「信行一如」です。これが日蓮聖人の「祈祷」です。一方日蓮宗は「祈祷」ではなく「ご祈祷」です。それはそれ自体を目的とする衆生の「迷い」の受け皿です。迷いのご祈祷によって拡大再生産されてしまうのです。迷雲に絡め取られた私たちは、その受け皿に布施という名の金品を、迷いが祓われる度に積んでいきます。宗教経済学からみれば大変効率のよいビジネスです。宗教を生業とする人々にとっては人の「苦」の種子を再生産できるうまみのある商売なのです。

ウイルスはご祈祷で退治はできません。退治を信じてご祈祷しているならそれは戯画 琉游舎：戸井 出琉・恭子です。ワクチンとご祈祷のどちらが効果あるか問うたら、何と答えるでしょう。寺院はご祈祷という茶番を止めないといずれ消滅するでしょう。お問い合わせ：0287-53-7848 08033508152 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850 新型コロナウイルスの消滅とどちらが先か競争ですね。注1：岩波文庫「ブツダのこぼれ」360節 メール：toi10lizuru@outlook.jp